

〔テーマ〕ひとりでも楽しめる“にぎわいづくり”と「情報」「交通」について

◇開催年月日・時間:令和7年8月30日(土)14:00~16:15

◇開催場所:地域交流センター赤石楽舎 会議室

◇参加者:参加者計19名(1班7名+2班5名+3班7名)

コーディネーター1名+ファシリテーター3名+アシスタント6名

市役所事務局2名+図書館課3名

見学1名

I 開会・報告・意見交換(ワークショップ)の検討テーマの解説

(1)報告事項

◇ 第1回ワークショップの振り返り(ターゲットでの活動・施設の取りまとめ)

(2)意見交換(ワークショップ)の検討テーマの解説

①“ひとりでも楽しめる”にぎわい創出拠点のイメージとサービスについて

②拠点を訪れるきっかけづくりとしての情報発信方法について

③来訪者の交通手段をイメージした受け入りの仕組みづくりについて

II 意見交換(ワークショップ)の総括

①“ひとりでも楽しめる”にぎわい創出拠点のイメージとサービスについて

1)ひとりで拠点を訪れるきっかけづくりやひとりでも楽しめる施設のあり方の検討、
2)ひとりで訪れた来訪者が拠点で新たに生まれるコミュニティに加わる仕組みの検討という共通する検討成果が発表された。人には、血縁・地縁・仕事の縁、趣味の縁・信条の5つの“縁”があると言われている。この中で、大切となる縁が、仕事や学校での仲間での縁ではない、「趣味や関心領域を共有できる仲間とのコミュニティ(縁)をもつこと」であり、これが「社会からの疎外感を生み出さないこと」につながる。

②拠点を訪れるきっかけづくりとしての情報発信方法について

拠点でのコンシェルジュ的な窓口・相談できる仕掛けに加えて、にぎわい創出拠点における様々な検討が進められている現段階からの情報発信も行い、検討段階から興味・関心を惹くようにし、そのサイトや情報発信のツールを、拠点創出後も民間活動団体の協力を得て発信しつづけることが効果的との意見も得られた。

③来訪者の交通手段をイメージした受け入りの仕組みづくりについて

地方都市において、駐車場確保は大切であるものの、必要な駐車容量の確保により広場空間が狭くなるのであれば、駐車場よりも広場の確保を優先したいとの意向が共通していた。そのためには、拠点周辺も含めた駐車場の確保(現図書館での跡地利用を含む)、公共交通機関のサービス密度(運行本数)向上とルートの再考、駐輪場の確保、歩いて楽しいルートの創出と空間づくり等の共通した意見が寄せられた。



【ひとりでも楽しめる拠点(活動イメージとサービス・施設)】

- ◇ ひとり利用は「高齢者」「中高生」「大学生」「若者(社会人)」「子育てママ(特に県外から嫁いできたママ)」が対象として想定される。
- ◇ いずれの対象も、「ひとり時間を楽しめる」ようにするとともに、「おひとりさまが集まって交流できる」ことが必要。また、自分の趣味を楽しめるようにする。
- ◇ 対象別には、「高齢者」は趣味の共有や健康麻雀、終活コーナー、「学生や若者」は勉強や運動のほか、夜間も使えるフリースペース、「子育てママ」は保育園や病院の口コミなどのちょっと深い情報、同じくらいの月齢のこどものママとの交流、その他保健センターとのアクセスがよいなどが求められる。

【来訪の交通手段・駐車場確保に対して…】

- ◇ にぎわい創出拠点の敷地に駐車場をたくさんつくるのではなく、巡回バスやデマンドタクシーを受け入れるようにする。そのために、バスの本数充実や定時性向上、終電との接続、デマンドタクシー充実などが課題である。
- ◇ また、保健センターなどと連携して駐車場をシェアすることで、拠点の周辺に駐車場を確保する。その際、周辺駐車場から拠点までのアクセスも重要(街路樹など)。

【来訪のきっかけとなる情報発信について…】

- ◇ 拠点に訪れるきっかけづくりとして、学割や公共交通の利用割引、周辺商店の割引、クーポンなどが考えられる。また、「〇〇の日(例:じいちゃんと孫の日)」や公式キャラクター、キャッチフレーズなどで親しみやすくする。
- ◇ 学校(図書館)や企業、商店のほか、町内では回覧板や公民館などで情報を発信する。その他、テレビ・ラジオ、新聞、電柱広告、バス電車の中吊り、待ち時間の長い駅や病院での発信、HPやSNSなど、市民みんなが知ることができるようにする。
- ◇ 市民が参加する宣伝会議を立ち上げて、フリーペーパーなどをつくり紹介する。検討段階から整備、オープンに至るプロセスを発信する。そうして市民の自分ごとにしていく。



ひとりでも集まる拠点は?

1 班

二好おもしろい

高者

中・小休めて
会話しやすい
10分

シア
茶室

1人で集まる
スペース

生活コー
ナー
10分
(高効率)

中高年齢層
5分
マーソン

囲碁・将棋
の相手がある
(高効率)

3分
3分
3分

おもしろい
集まる!

中高

教室と
提供の場

個別の
勉強
スペース

勉強スペース

生活コー
ナー
10分
(中高)

大学

パソコン
の設置

パソコン
の設置

1人で勉強に
つなげる場所
(ネットカフェ
資格対策)

1人専用の
席がある
(知能・人材
人向け)

生活コー
ナー
10分
(中高)

生活コー
ナー
10分
(中高)

生活コー
ナー
10分
(中高)

生活コー
ナー
10分
(中高)

若者
(社会)

生活コー
ナー
10分
(中高)

若者
(社会)

生活コー
ナー
10分
(中高)

若者
(社会)

生活コー
ナー
10分
(中高)

若者
(社会)

生活コー
ナー
10分
(中高)

交通手段は?

情報提供 (若者向け) 1 班

指定の
回数に
乗車券
20分

乗車券の
回数に
乗車券
20分

若者向け

1人で集まる
拠点を
駅構内
に作る
20分
20分
20分

若者向け

若者向け

若者向け

若者向け



【ひとりでも楽しめる拠点(活動イメージとサービス・施設)】

- ◇ ひとりで集中した学習や作業ができる学習室、個室ブース等の整備が求められる。
- ◇ 一方、ひとりが集まるという視点も重要であり、共通の趣味を持つ新しい仲間や、興味・関心事と出会うための「マッチング掲示板」、「この指とまれコーナー」、「サークル体験サービス」等、創業支援にもつながるようなサービスの充実が考えられる。
- ◇ シングルマザー、シニア、課題を抱える児童・生徒など、場合によってサポートが必要な、様々な「ひとり」を想定し、「ボランティア募集や紹介カウンター」「(市民有志による)お助けマンコーナー」など、絆・ふれあいを感じられる施設となしてほしい。

【来訪の交通手段・駐車場確保に対して…】

- ◇ 周辺の銀行などの駐車場の共用利用(時間別)、近隣の商業施設やホテルの駐車場を利用したパークアンドライド等、敷地内で完結せず、敷地外も含めて必要な駐車容量に対応することで、広場の面積をできるだけ確保し、活動の幅が広がるようにしたい。
- ◇ 例えば、平日は駐車場で、休日はイベント会場となるような、広場としても利用できる駐車場の形が望ましい。
- ◇ 電車、バスなどの公共交通機関や、徒歩、自転車での来訪を促したり、Loop(電動キックボード)の整備、将来的に実現するであろう、新しい交通手段について、積極的に取り入れる検討を行うこと等で、交通手段が自動車に偏らないことを期待したい。

【来訪のきっかけとなる情報発信について…】

- ◇ 40代以上を対象にする場合には「回覧板」、10代、20代の若者には「TikTok」を活用する(さらに、若者向け動画の制作は若者に依頼する)など、様々な媒体を組み合わせながら、対象を明確にした、効果的な情報発信が望まれる。
- ◇ 拠点オープンの1か月前くらいから広報を開始し、1週間前からカウントダウンを行うことで、期待感・ワクワク感を煽り来訪につなげたい。
- ◇ 拠点のオリジナルテーマ曲の作成、コミュニティFMでの広報などで、耳からも情報を届けるようにしたり、オープン後も定期的に繰り返し広報を行うなど、市民が頻繁に拠点についての情報に触れる機会を提供することが重要である。



交通手段

多様なアクセス手段

1. 自転車 (無料)
2. 徒歩 (無料)
3. バス (運賃あり)
4. 電車 (運賃あり)
5. 自動車 (燃料費あり)
6. タクシー (高料金)
7. レンタサイクル (有料)
8. バイク (免許あり)
9. 自転車シェアリング (有料)
10. 電動自転車 (有料)

自転車、自転車の利便性 (公共交通に比べ?)

レンタルサイクルの普及

バスの本数を増やす
駅前市の駅前の1時間以内

公共交通の乗り方、バスの本数確保の見直し

バスの本数を増やす

駅からのバス頻度の増やす (土日)

バス専用レーン

本数は増やす

駅前のバス頻度の増やす (土日)

県外、市外、市外へのアクセス

地域へのアクセス

バス専用レーン



情報

広報、周知、周知の重要性

デジタル活用

デジタル活用

周知の重要性

周知の重要性

周知の重要性

歩道の確保 (伊勢崎線から当地区まで)



駅前の歩道の確保

歩道の確保

道路、自転車道の確保

道路、自転車道の確保



歩道の確保

歩道の確保

駐車場、駐輪場について

駐車場の確保

駐車場の確保

無料の駐輪場

情報発信

デジタル・バーチャル

リアル

SNS

Ⅲ みんなでつくる中心市街地にぎわい創出拠点検討委員会への報告について

8月に集中して市民ワークショップを開催し、にぎわい創出拠点への多様なアイデアを得ることができ、ワークショップ開催の成果が得られた。検討委員会には、ワークショップ参加者の拠点創出に対する熱い思いを添えて伝えたい。

各回でのご意見の総括として取りまとめた内容をもとに、にぎわい創出拠点整備構想への提案として、個々のアイデア内容とともに、総括した以下の6つのポイントについて報告したい。



【ポイント①】 目標をどこに置くかが大切・・・整備後の活用・市民の関わりこそが重要!!

市民ワークショップでのにぎわいづくりのアイデアの多くは、施設完成後に多くの市民が訪れる拠点となることを目指したものである。拠点施設の完成を目標とするのではなく、完成後、様々な方々が施設を訪れ、思い思いの活動をする場所として利用されることが大切である。

多文化共生も含めて人と人とが実際に交流すること、交流を通じて新たな楽しみが享受され、伊勢崎での豊かなライフスタイルが実現できること等、整備後にも市民が何等かの関わりを持って拠点の魅力を高めつづけられることが大切である。

現在の若者・学生たちが家庭をもって、3世代で訪れる姿もイメージした拠点づくりを構想されることに期待したい。

(第1回WSの総括を中心に)

【ポイント②】 来訪に期待するターゲットのニーズを想起することでにぎわいの姿がみえてくる

拠点への来訪が期待されるターゲットを絞って討議したことから具体的かつ多様な活動の姿がイメージされ、その実現のためのサービス・施設が提案された。

にぎわい創出拠点の整備においては、機能・施設ありきではなく、来訪が想定される様々なタイプの人々のニーズ(需要)とウォンツ(欲求)に沿って活動をイメージして、そのために必要なサービス・施設の導入を検討すること(施設ありきではなく活動ありきの思考)に注力いただきたい。

(第2回WSの総括より)

【ポイント③】 ターゲットとなる来訪者のライフスタイルに応じて拠点を“シェアする”こと!!

来訪が期待されるターゲット層により、来訪したくなる時間帯や曜日等が異なる。同じ空間・施設(諸室)においても、曜日や時間帯を組み合わせることで稼働率は向上する。にぎわい創出拠点を一週間・一日の中で空間を“シェアする”という考えを持つことで、空間や諸室が多層的に稼働し、にぎわいが生み出されることにつながるものとなる。

(第2回WSの総括より)

〔ポイント④〕 拠点完結ではなく拠点からの“にじみ出し”が大切、回遊を誘発することにも!!

すべての活動ができる機能・サービスをこの拠点に詰め込むのではなく、駅前や本町通り等、周辺へと“にじみ出す”ことも大切。それにより中心市街地での回遊が生まれてくるものとなる。

にぎわい創出拠点での整備をきっかけに、現図書館の跡地利用や中心市街地全体での歩いて楽しめる回遊の仕掛けづくり等も併せて検討されることに期待したい。

(第1回WSの総括より)

〔ポイント⑤〕 中心市街地の回遊につながる駐車場の適正配置も考慮した整備に期待!!

自家用車依存の高い地方都市において駐車場の確保は大切な集客要因である。にぎわい創出拠点に多くの来訪者を誘客し、滞在時間が長くなれば、駐車場の回転率は低下し、駐車場の空間占有率は高くなることが予想され、広場面積が狭くなることが予想される。第三のにぎわい創出拠点整備にあたり、中心市街地内における公共交通機関の充実や中心市街地全体での回遊を意識した駐車場の適正配置等にも考慮されることに期待したい。

(第3回WSの総括より)

〔ポイント⑥〕 安心感を生むためには災害への備えは必須!!

“安心感のある拠点”となることを期待する背景には、安全・安心な拠点を形成することにある。そのためには災害への備えも必要である。酷暑への対応も、災害級の酷暑とすれば、災害への備えの一つといえる。

今後の公共施設の整備においては、緊急時の来訪者への安全確保は必須であり、最低限の防災機能は備えておくことが求められる。

(第1回WSの総括より)

